

令和6年度 第1回江南市総合教育会議 会議録

開催年月日 令和6年7月22日（月）

場 所 江南市役所 第3委員会室

出席委員	市長	澤田和延
	教育長	村良弘
	教育長職務代理者	後藤鎮全
	委員	藤田佐知子
	委員	山田茂美
	委員	岩田正武

会議に出席した事務局職員

企画部長	平松幸夫
企画課長	矢橋尚子
企画課グループリーダー	吉井陽一
教育部長	松本朋彦
教育課長	茶原健二
教育課管理指導主事	長岡晃臣
教育課主幹	源内隆哲
学校給食課長	仙田隆志
生涯学習課主幹	前田昌彦
スポーツ推進課長	中村雄一
健康こども部長	坪内俊宣
子育て支援課長	長谷川 崇
総務部長	河田正広
財政課長	安達則行
財政課主幹	大池慎治

傍聴者数 0名

議 題 (1) 江南市の教育に関する大綱の進捗状況について
(2) 学校施設の長寿命化及び再配置の検討について

午後1時30分 開会

<企画部長>

ただいまより、令和6年度第1回江南市総合教育会議を開会いたします。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、本市の教育に資するため設置するもので、市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、本市の教育に係る課題やあるべき姿を共有し、連携して教育行政に取り組むものでございます。

それでは、開会に当たりまして、澤田市長よりご挨拶を申し上げます。

<市長>

皆さんこんにちは。澤田でございます。

本日は、大変お忙しい中、令和6年度第1回江南市総合教育会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、今年度は市制70周年の節目の年であります。

教育部の事業におきましても、公民館フェスタや図書館まつりなどのイベントが、70周年記念事業として開催される予定となっております。

また、今年5月、江南市は国から「SDG s 未来都市」に選定され、SDG s の達成に向けた取り組みと一体的に、第6次江南市総合計画後期計画を推進していくこととしております。

計画の中で市長の戦略計画として掲げております、「こども関係施設の利便性の向上」や「地域防災の強化」に繋がる事業として、学校体育館の空調設備の設置について、今年度中に設計委託を開始し、早期に全ての小中学校において設置が完了するよう、進めてまいります。

また、令和7年9月の供用開始を目指して、新学校給食センターの建設が始まっております。民間事業者とのパートナーシップのもと、安心して安全な給食システムの構築を目指してまいりたいと考えております。

本日の会議でございますが、「江南市の教育に関する大綱の進捗」と「学校施設の長寿命化及び再配置の検討について」を協議してまいります。

教育委員会の皆様には、それぞれの立場から率直なご意見をいただくことをお願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。

<企画部長>

ありがとうございました。本日の出席者につきましては、お手元の名簿と配席図をもって代えさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。では、ここからの進行は、本会議の招集者でございます澤田市長にお願いいたします。

<市長>

それでは、議事を進めてまいりたいと思います。

議題1 江南市の教育に関する大綱の進捗について、でございます。

この大綱につきましては、昨年度、この総合教育会議の場において、教育委員の皆

さまの意見をお聞きしながら改訂を行ったものでございます。

今年度につきましては、重点施策の進捗状況の報告となりますので、教育課、学校給食課、スポーツ推進課、生涯学習課、子育て支援課の順で報告をお願いします。

<教育課長>

それでは、まず、教育課から、ご説明をさせていただきます。

「江南市の教育に関する大綱」をご覧ください。

2ページをお願いいたします。

教育大綱につきましては、教育行政における目標や取り組み方針である基本方針、重点的に取り組むべき重点施策で構成されています。基本方針は、柱1から柱5まであり、柱1は教育課と学校給食課、柱2が教育課、柱3がスポーツ推進課と生涯学習課、柱4が生涯学習課、柱5が子育て支援課の分野となっています。

それでは、3ページをお願いします。

柱1、地域に開かれた快適で安全な学校づくりの推進に対応する施策としまして、①コミュニティ・スクール事業の推進について、ご説明いたします。

児童・生徒の教育の充実のために、コミュニティ・スクール事業を継続し、学校と地域が一体となり、開かれた学校づくりを推進するものでございます。

地域とともにある学校づくりを目指し、昨年度は、学校運営協議会を延べ74回開催され、今年度につきましても、全ての学校で順調に協議会を開催しており、その中で、学校運営の基本方針の承認や、年間活動予定、学校が抱える課題への対応などについて協議が行われています。

続いて、②環境に配慮した学校施設の整備、充実について、ご説明いたします。

学校施設の温室効果ガス排出量及び維持管理費を削減するため、校舎照明設備のLED化を推進するとともに、老朽化した校舎等の改修を行い、学校施設の整備、充実を図るものでございます。

校舎照明設備のLED化につきましては、今年度、古知野東小学校、古知野南小学校、布袋北小学校、北部中学校の4校において実施いたします。その他の学校につきましても、計画的に実施し、令和8年度までに、全ての小中学校で、校舎照明のLED化を完了したいと考えております。

続いて、③特別支援学級等 支援職員等の市費による学校職員の配置の充実について、ご説明いたします。

特別支援学級及び通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒に対する支援を充実するため、特別支援学級等支援職員などについて、市費での人的支援を図るものでございます。

今年度は、保護者や学校現場において、要望の多い、特別支援学級等支援職員を2名増員し、小・中学校 合わせて36名で支援を行っています。

続いて、④ICTを活用した教育環境の整備、充実について、ご説明いたします。

教職員のICT活用指導力の向上を図るとともに、児童生徒の能動的な学習への参加や理解の促進、思考力や表現力等を育む教育活動を支援するため、ICT機器及び通信

環境のさらなる整備を推進するものでございます。

令和3年度より、一人一台 学習者用端末の授業での段階的な活用を実施しており、映像や動画を使うことによる視覚的な効果や、画面上に多くの意見を張り付けることができるソフトを活用することなどにより、児童・生徒の能動的な学習への参加を促し、思考力や表現力、発表力などを育む教育活動を支援するものでございます。

続いて、⑤安心・安全な給食の提供は、学校給食課からの説明となります。

<学校給食課長>

学校給食課の現在までの進捗状況について、報告します。

4ページをお願いいたします。

⑤安心・安全な給食の提供につきましては、新学校給食センターの令和7年9月供用開始を目指し、事業進捗させるとともに、代替食など食物アレルギー対応を行うにあたり、給食センターと各学校と連携し、安全に提供できる体制を構築します。

また、有機農産物を活用したオーガニック給食の導入について研究していくとしていきます。

新学校給食センター整備事業の実施におきましては、設計、建設、維持管理及び運営に関する専門的な知識やノウハウが求められることから、事業者の決定においては、入札価格のほか、設計、建設、維持管理運営等の提案内容及び事業計画の妥当性・確実性等の観点から総合的に評価を行う、総合評価一般競争入札方式を採用し、事業者を募集しました。

3グループから応募があり、8月には提案書に対しての事業者によるプレゼンテーションを実施し、その内容についてヒアリングを実施した結果、株式会社メフォスを代表企業とするグループに決定し、令和7年9月からの供用開始に向けて進捗することができました。

また、有機農産物の活用につきましては、令和6年1月の給食で、市内の農家が栽培した無農薬・無化学肥料の大根を使用した献立を提供しました。

以上で学校給食課の進捗状況の報告を終わります。

<教育課長>

続きまして、柱2心豊かな子どもの育成支援の推進に対応する施策といたしまして、①子どもを育成する環境の充実について、ご説明いたします。

個性や多様性を認め合い、児童生徒の不安や悩みが解消され、不登校やいじめ問題を解決するため、心の教室相談員などについて、市費での人的支援を図り、相談活動や居場所づくりの充実を図るものでございます。

今年度は、昨年度と同様に、心の教室相談員15名とスクールソーシャルワーカー2名、県費のスクールカウンセラー8名を配置しており、児童生徒に対して、相談活動の充実に努めております。

また、不登校対策としての児童の居場所づくりといたしまして、校内教育支援センターの設置を進めています。

令和4年度に古知野東小学校、5年度に宮田小学校、今年度は、門弟山小学校に校内教育支援センターを設置し、児童の居場づくりの確保に努めております。

続いて、②子どもの将来教育・社会体験の充実について、ご説明いたします。

勤労観・職業観の育成を、発達段階に応じて、教育活動の全領域で取り組むため、地域との連携を強化し、キャリア教育、ボランティア活動の充実を図るものでございます。

キャリア教育といたしましては、中学2年生の職場体験学習を実施するとともに、各中学校においては「働く人の話を聞く会」を開催するなど、働くことの大切さを学ぶ場を提供しています。

以上、柱1、柱2のご説明となります。

<スポーツ推進課長>

続きまして、柱3生きがいをもって暮らせる生涯学習環境の整備に対応する施策といたしまして、スポーツ推進課の関係部分、①スポーツ活動の推進とスポーツ環境の充実について、現在までの状況をご説明いたします。

令和元年度に策定しました江南市スポーツ推進計画に基づきまして、「誰もが気軽にスポーツを楽しめるまち こうなん」を基本理念として、「楽しみん祭」や「小学校区ごとのコミュニティ・スポーツ祭」「江南市民駅伝競走大会」といった各種スポーツ教室及びスポーツイベントを毎年開催しています。

また、市では、国・県の方針に沿って、中学校の部活動を地域へ移行する取り組みを進めており、スポーツ推進課では、その受け皿づくりとして、総合型地域スポーツクラブをはじめ、さまざまな関係団体と協力しながら、試行実践を行っているところです。

スポーツ推進課の該当部分の説明は以上となります。

<生涯学習課主幹>

次に、②図書館の運営でございます。

toko+toko=labo、江南市布袋駅東複合公共施設において令和5年4月1日に開館いたしました江南市立図書館につきましては、「市民一人ひとりの暮らしに寄り添い、幸せをかたちにする図書館」を基本理念とし、新たなまちづくりの拠点となるよう施設運営を行ってまいります。

開館初年度となる令和5年度につきましては、年度末で44万人以上の方にご来館いただき、新しい環境が浸透し、幅広い年齢層の方々に多くご利用いただいています。

図書館用図書としましては、令和5年度に1万4,000冊以上を購入し、令和5年度末では約17万9,000冊の蔵書冊数となっております。江南市図書館基本計画では、蔵書冊数の目標を30万冊としており、今後につきましても、この計画に基づき図書館の整備を進めてまいります。

イベントホールを活用した事業としましては、映画上映会やマジックショーを実施し、多くの方にご参加いただきました。今後につきましても、引き続き映画上映会や講演会を計画しており、より一層、図書館の指定管理者である、株式会社図書館流通センターと連携をしながら、多くの市民の方々が利用しやすい図書館の管理・運営が

できるよう、事業を進めてまいります。

続きまして、柱4地域の特色を活かした芸術・文化・交流の推進について、①芸術文化の振興・郷土の歴史の継承で心を豊かにする地域づくりでございます。

地域の芸術文化活動の拠点となる市民文化会館の環境整備を進めるとともに、市民が芸術文化活動の主役となる地域づくりを推進してまいります。

令和5年度につきましては、利用者の利便性が向上するよう環境整備といたしまして、展示室の改修工事と、大ホールの舞台音響操作袖卓の更新を行いました。令和6年度につきましては、大・小ホールの舞台音響操作卓や展示用パネルの更新を予定しており、今後につきましても、指定管理者と連携を図りながら、地域の芸術文化活動の拠点となる環境整備を図ってまいります。

次に郷土の歴史や伝統への誇りと愛着を高めるための教養講座等を開催し、未来へ伝えてまいります。

現在、盆踊り講習会や美術館めぐりなどの教養講座、秋には小中学生を含めた市民が参加をする美術展を、また、Home&nicoホール、市民文化会館では、指定管理者の企画による市民に芸術文化に接する機会としての自主文化事業を行っております。また、中学1・2年生を対象とした夏休み中学生歴史教室を開催しております。

令和5年度の実施内容といたしましては、文化協会による文化祭、盆踊り講習会、及びHome&nicoホールにおける指定管理者の自主文化事業など多くの事業が行われ、美術展につきましては、小中学生を始め、多くの作品を出品していただきました。

今後の展開といたしまして、今年度につきましては文化協会による文化祭や盆踊り講習会も開催しており、美術展につきましては、市制70周年記念事業といたしまして、令和6年度は記念賞を設けることとし、作品の募集を始めたところでございます。子どもたちが文化芸術に触れる機会を提供するため、引き続き、次世代を担う子ども向けの事業を展開するとともに、市民文化会館を安心安全に利用していただけるよう、施設の整備を図ります。また、中学生歴史教室など、江南市の歴史や文化的資源を活用した事業を展開し、文化の向上を図ってまいります。説明は以上でございます。

<子育て支援課長>

続きまして、柱5地域が支える子育て支援の推進について、子育て支援課からご説明させていただきます。

①新・放課後子ども総合プランの推進につきましては、放課後子ども教室と学童保育所に通う児童が、放課後子ども教室を実施する部屋等で、様々な体験や活動を行う「共通プログラム」を通して、次代を担う人材を育成し、放課後等を安心安全に過ごすことを目的とした放課後対策事業でございます。

これまで、放課後子ども教室と学童保育が連携し、「共通プログラム」を実施してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童が多く集まり、密になりやすい「共通プログラム」の実施は、令和2年度から中止していましたが、令和5年度より、すべての小学校で再開しております。

今後も内容を吟味して、魅力的なプログラムを実施できるように取り組んでまいりた

いと考えております。

②放課後児童の居場所づくりですが、まず、放課後子ども教室についてでございます。

令和5年度から市内すべての小学校で実施しております。令和5年度は7月末現在で506人の登録をいただき、多くの方々にご利用いただいております。

次に、学童保育につきましては、令和4年度より小学6年生までのすべての小学生が申し込みできるようになっておりますが、利用を希望する児童数の増加に伴い、多くの学校で4月から待機児童が発生し、令和5年度は5月末現在で104人の待機が発生しております。

この中で特に多くを占める夏休み期間中の待機に対して、人材派遣を活用するなど様々な方法で支援員の確保に努めるとともに、布袋小学校のご協力により音楽室を借用したり、古知野西学童保育所分室の開設をしたり、待機児童の保護者に定員の空きがある藤里学童保育所を案内するなど、待機の解消を図り、7月末には36人まで削減をすることができました。今後も支援員の確保に努め、安定した学童保育所の運営に努めてまいります。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

<市長>

説明がおわりました。この件につきまして、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。

<山田委員>

質問をさせていただく前に、先程の澤田市長のご挨拶の中で、学校体育館の空調設備の設置について、今年度中に設計業務を開始し、早期に全小中学校に設置を進めていただけるお話がありました。先ずもってお礼を申し上げます。

近年の猛暑を踏まえた熱中症対策として、児童生徒、教職員が安全安心で快適な教育環境を確保できることになりまるとともに、災害時の避難所としても地域住民が安心して避難できる場所として、防災の強化が図られますことを私自身も大変嬉しく思っております。早期の対応をどうぞよろしくお願い申し上げます。

<市長>

ありがとうございます。

<山田委員>

それでは質問に入らせていただきたいと思います。4ページの柱2、心豊かな子どもの育成支援の推進、①子供を育成する環境の充実の中で、不登校対策について質問をさせていただきたいと思います。不登校の児童生徒にとって、他の児童生徒と顔を合わせなくてもよい環境、心安らぐ居場所というものは、不可欠と言われております。

特に小学校では、通常の教室に入れられない不登校児童に対して、常設の居場所を校内に設置している学校はまだ少ないと聞いております。その中で江南市が新たな不登校

対策の取り組みとして進めております、校内教育支援センターについて、大変期待をしているところであります。先程の説明で、古知野東小学校、宮田小学校に続いて、今年度は門弟山小学校に校内支援センターを設置されたということでございますが、これまでの成果、そして今後の見通しについてお聞かせください。

<教育課長>

昨年度、古知野東小学校と宮田小学校に校内教育支援センターを設置しましたが、その中で、今年度から、数名の児童が教室に復帰できたとの報告があり、また、ある保護者の方からは、こういった場所を作っていただき、子供が救われたといった感謝の手紙をいただいております、一定の成果があったものと考えています。

また、来年度につきましては、学校からの要望がございました古知野南小学校、古知野北小学校、布袋北小学校の3校に設置する方向で、関係各課と調整を図っている状況でございます。

<山田委員>

ありがとうございます。校内教育支援センターを利用した数名の児童が教室に復帰できたことを、嬉しく思っているところでございます。教室へ復帰ができたとしても、いつ何がきっかけで、教室に足が遠のいてしまうかもわからない状況と思います。そのような中で校内教育支援センターが常設されていることは、大変意味があると感じております。児童が安心して登校できるように、全小学校への展開を進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

<後藤委員>

柱1の⑤安心・安全な給食の提供についてですが、新学校給食センターが令和7年9月の供用開始に向けて、いよいよ工事が始まりました。大変楽しみにしております。

その中で、アレルギー代替食の提供とありますが、これは供用開始と同時に提供されていくものなのか、または、少し時期を置いてから始められるのでしょうか。万全の体制で取り組んでいただかなければならないので、しっかりとした体制でお願いします。

もう1点は、給食費について、江南市では値上げの時に、値上げ分の金額を補助したり、4月1ヶ月分の給食費を無償化したりということを取り組んできましたが、報道を見ておきますと、自治体により違いますが、もう1年無償化に取り組んでいく自治体もあれば、そうではない自治体もある。それぞれバラバラですが、今後さらに子育て支援策として、無償化の期間を拡大していくべきだと思います。非常にコストのかかる問題ですので、近隣市町の現状がどんな状況であるのか、また、江南市は今後どのように考えているのか、お聞かせください。

<学校給食課長>

新学校給食センターでのアレルギー対応食の時期でございますが、やはり安全が第

一ということを考えまして、新学校給食センターが令和7年9月に供用開始をいたします。その中で、まずは通常の給食が安心・安全に提供できる体制を確認し、進めていきたいと思っております。アレルギー対応食につきましては、給食センターと学校との関わり合いが非常に重要になってきますので、今年度、アレルギー対応食検討部会を立ち上げまして、委員として、小中学校の校長先生、養護教諭2人と、栄養教諭2人を入れて構成させていただき、現在、検討を進めているところでございます。

安全が第一ということを考えますと、現時点の部会での協議の状況ですが、1年後の、令和8年の9月から、アレルギー対応食を提供できるように進めていきたいと考えております。その間には、モデル校を設置して、受け渡しから個別面談の仕方などを実際に経験をして、その中で問題が生じてくるようであれば改善していく、ということを実ミュレーションして、万全の体制で令和8年9月にアレルギー対応食を提供できるように検討を進めているところでございます。

次に、無償化についてですが、今年に入りまして一番大きい話題として、豊田市が無償化をすることが報道されました。それを受けまして、近隣の状況で申し上げますと、津島市が昨年の4月から市長公約になります。半額補助をして残った半額を、臨時交付金で対応していた状況がありました。令和6年の状況で申し上げますと、津島市では、半額は市費を持ち出して、残りの半額につきましては、令和5年度の臨時交付金の残額を充てて、令和6年の4月から1年間、無償化をする取り組みをしているとのこと。愛西市につきましては、令和4年度から中学校に対して、給食の無償化を行っております。犬山市につきましては、小学校6年生と中学校3年生を無償化していく話を聞いております。

江南市につきましても、今年度4月の1ヶ月分を無償化しておりますが、保護者の方に伺うと、やはり1ヶ月でも無償化されると、子育ての面で助かるということ仰っており、子育て世帯の負担の軽減に繋がっていると感じております。期間の延長につきましては、委員からもお話がありましたように財源の問題がありますことから、財政部局と協議をしております。

<後藤委員>

ありがとうございます。給食費の無償化につきましては、先々のことを考えて慎重に取り組んでいただきたいと思いますと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

<藤田委員>

私からは柱4と柱5についてお伺いしたいと思います。まず、柱4について、市民文化会館は昭和59年に開館し、その後40年が経過したことにより建物や設備もかなり老朽化していると思われそうですが、改修や修繕の予定や計画はどのようになっていますか。

<生涯学習課主幹>

第4期の指定管理者からは、屋上の防水シートの張替えや、館内の受電高圧ケーブル

ルなどに不具合が生じてきているため、改修工事が必要なことを聞いており、また、利用者の方からは空調の整備を進めてもらいたいとの要望を受けております。しかしながら、大規模な改修となりますと、施設の利用に制限が出てくることや、大きな予算が伴うため、計画的に進めていく必要があると考えています。現時点では具体的な予定はありませんが、今後につきましては、計画的に改修や修繕が進められるよう、財政部局とも相談してまいりたいと考えております。

<藤田委員>

ありがとうございます。市民文化会館を利用した際に、この時期になりますと、ロビーなどがとても暑いと感じました。開館して40年も経過しているのです、空調設備もかなり老朽化してきているのではないのでしょうか。

江南市の芸術文化活動の拠点の場として、市民だけではなく、全ての利用者の方に快適で気持ちよく利用していただけるよう、隣接地には中央公園もありますし、クールステーションの役割も果たせるように空調や遮熱などの整備を進めていただきますようお願いいたします。

続きまして、柱5の①新・放課後子ども総合プランの推進について、新・放課後子ども総合プランの充実ということですが、令和4年度まではコロナ禍のこともあり、実施できていなかったと思いますが、令和5年度は、コロナ禍以前のように実施できたのでしょうか、また、②放課後児童の居場所づくりについて、以前より放課後の児童の居場所、特に学童保育所において待機の問題がずっと言われており、両親共に働いているのが世の常になってきております。待機の解消については、どのようになっているのでしょうか、以上2点についてお尋ねします。

<子育て支援課長>

新・放課後子ども総合プランの推進につきましては、令和5年度からは学童とフジッ子の子どもたちが同じ遊びを行う総合プランの中の共通プログラムを再開しております。実績といたしましては、各小学校で年数回、延べ17回実施することができました。参加人数も延べ647人ということで、多くの子どもたちに楽しんでもらうことができたのではないかと考えております。内容といたしましては、主に室内では読み聞かせや工作、外ではドッジボールを行いました。子どもたちの評判も良く、今後も継続して実施していきたいと考えております。

学童保育所の待機児童につきましては、以前から様々なところでお問い合わせをいただいております。直近の令和6年度の状況を申し上げますと、5月末には81人の待機児童が発生している状況でございましたが、利用希望者の多い夏休みに向けて人材の確保に努めた結果、令和5年度と同様に布袋小学校の音楽室、古知野西学童保育所分室に加えて、今年度は古北にじいろ会館の3部屋目を開室する目途が立ちましたことから、6月末現在では12人となっております。今後も支援員の確保に努め、待機児童が安定して少ない状態を保つことができるようにしたいと考えております。

<藤田委員>

ありがとうございます。今後よろしく願いいたします。

<岩田委員>

先程から各種の施策は確実に進められておりまして、予算面でも配慮をいただいて、着実な成果を上げているとことが本当によくわかりました。改めてお礼申し上げます。

私からは、柱3のスポーツ活動の推進と環境の充実に関連して、中学生の学校運動部活動を地域クラブに移行することについて、改めて取り上げさせていただきます。

ご承知のように先日、中学生のスポーツ大会の全国大会について、見直しの案が出るなど中学生の部活動に関する議論の高まりを感じる中、昨年度から検討委員会がスタートいたしました。この中で、昨年12月に実施したアンケートの結果の概要についての報告があり、地域クラブへ移行するという考え方については、小学校4年生から6年生までの保護者全体の約80%が理解を示しております。そして、69%の方が地域クラブに参加の意思があるとアンケートに答えられています。生徒の選択の機会が増えることについて好意的である一方、地域クラブでの指導内容、そして受益者の負担、会場への移動について、不安を抱える保護者が多数あることもアンケートから見えて参りました。私もこの検討委員会に参加しておりますが、この検討委員会でまとめた報告書については、今年4月に教育長に提出をさせていただきましたが、そこには中学生の受け入れ先となる地域クラブの運営主体を、総合型地域スポーツクラブ、つまりスポーツクラブ江南を第1候補として、準備が整えば設置可能なことから進めるとなっております。今後、保護者をはじめ、関係者に対して十分な事前周知を行うとともに、特に受入れ団体には、資金面だけではなく、十分な支援を行うことが求められると思います。

そこでお伺いをいたします。国は、令和5年度から7年度の3カ年を、部活動の改革集中期間と位置付けており、もう2年目に入っていることとなります。スポーツクラブ江南が試行的な形で一部の種目について実施をしているわけですが、今年度から令和8年度6月の実施に向けて、江南市における部活動の地域移行の取り組みをどのように進めていくのか教えていただきたいと思っております。

<スポーツ推進課長>

ただ今、委員からお話しいただきましたように、令和5年度から検討委員会を6回に亘って開催してまいりましたが、その結果として、令和8年度の2学期からは休日における中学校の運動部活動は行わないこととし、地域へ移行するということを目標に準備を進めております。総合型地域スポーツクラブでありますスポーツクラブ江南につきましても、有力な候補として現在、試行実践を通じて、いろいろな連携をしているところです。現在は8種目、具体的に申し上げますと、剣道・ソフトボール・バドミントン・ソフトテニス・バレーボール・バスケットボール・軟式野球・陸上の内ランニングに特化した教室を進めております。多い種目では30名程度を超えるぐらいの参加者が、少ないところでは10名程度で活動を行っております。やはり、お金

の面や参加者の移動の面など、アンケート結果にもありますように、参加者からは様々なお声をいただいております。このような意見、要望を反映していきながら、試行実践を令和7年度も続けさせていただきまして、8年度の2学期に向けて進めているところであります。

また、保護者や生徒への周知につきましては、アンケートの中で委員にご指摘いただいたように、まだまだ周知が足りていないことを実感いたしましたので、様々な機会を通じて、現在の江南市の取り組み状況などを周知する必要があると考えております。

<岩田委員>

慎重に進めていく必要がありますが、今回のアンケート結果で約80%の人が理解を示しており、ある意味では、今がチャンスではないかと思えます。これまでそういうことを耳にしなかった小学校の保護者が、江南市の取り組みについて、理解をし始めていることから、このチャンスを逃す手はないと思えます。従って資金面でも、スポーツクラブ江南などが独立するためには、知識、人材面でも応援してあげないと、江南市の中学生全体がある程度参加できる体制を整えるのは、大変難しいことであろうと思えます。新しいことを始めることになるわけですから、困難もたくさんあると思えますが、財政面など、皆様のご協力をいただいで、いきなり全てがうまくいくとは思いませんが、保護者の期待に応えられるような施策を進めていただくように期待いたします。よろしく願いいたします。

<教育長>

大綱については、令和8年までの計画ですが、ほぼ順調にすすんでいると考えています。委員の皆様からご意見をいただいで、もう少し見直していく部分がありますので、事務局とともに、対応してまいりたいと思っております。

具体的な部分で申し上げますと、柱1の④ICTを活用した教育環境の整備、充実の関係で、学習者用端末は、令和3年から使い始めて4年が経過し、端末もかなり傷んできている状況であり、当然、更新の時期を迎えることとなりますので、市当局とも十分に協議しながら、国の補助金などの情報を十分に収集した上で対応していかなければならない。今では、なくてはならないツールの一つになっていると思っておりますので、更新等について、お願いをしたいと思っております。

給食関係については、先ほどアレルギー対応の話がありましたが、栄養教諭については、給食センターが1ヶ所になって6000食以上で、3人の栄養教諭しか配置されないという県や国の基準があります。そういたしますと、現在は4人いるわけですが、1人減らされてしまう可能性が高いということになります。アレルギー対応も必要でありますので、市費として栄養教諭を1名配置していただくように準備していかないと、間に合わなくなってくる可能性があると感じています。この辺も財政当局と協議が必要になってくると思えます。また、オーガニック給食の提供というのがありますが、学校給食課長とも相談しておりますが、オーガニック給食をどのように提供していく

のか、という話ですけど、親子給食を年に1回、夏休み中に行っていますが、このような場面で食材に活用できないか。それから新学校給食センターができた時には、定期的に親子の料理教室なども行いながら活用を図る。このようなことも今後の検討課題であると感じております。

部活動の地域移行に関しましては、どの自治体も非常に困っているところでもありません。教育長会などで情報を聞いていても、江南市は進んでいる方であると感じています。従って、他の自治体の議員からも訪問があり、江南市の状況を説明する場面もあるわけですが、まだまだ進捗については、途中半ばという状況であります。また、運営費的なものについては、必要になってくると思います。部活動から離れた地域活動であり、青少年の運動の場ということを考えると、単純に、スポーツクラブ江南などに「どうぞ」というわけにはいかないと思います。やはり財政的な支援が市として必要と思いますので、財政当局と協議が必要と考えます。多くの子供たちが活動できる体制づくりを市としても進めていかなければならないと思っております。

最後でありますけども、学童の待機者をなくすということは、非常に大事なことであります。民間の活力を活用しながら、場所などについては学校としても、できるだけ協力しながら、指導員などの人の手配も進めていきながら、待機者を減らしていかなければならないと思っております。子どもたちの数は減っており、少子化と言われておりますが、学童に入る子どもたちの数については、減っていないという状況を考えた上で、民間の力を活用するなど人材の確保を考えていく必要があります。

あと2年あります。この間に今の大綱の実践が全部できるように、一丸となって進めていく必要があると思っておりますことから、市当局におきましても応援をよろしくお願いいたします。

<市長>

ありがとうございました。私からは、最初に学校体育館空調設備の問題ですが、特に、今年1月1日の能登半島地震の影響により、このような声がかかり出てまいりました。寒い時期であったこともありましたが、一方で、今のような暑さの中で、今回のような災害が起きた場合、避難される方にとっては大変厳しい状況になることが想像できます。愛知県が県立高校の体育館に、複数年で空調設備を配備していくことを早い段階で示されました。これを受けて、各市でも整備を進めていく状況が起きまして、既に空調設備の設置を決定をしたところもございます。江南市といたしましても、方向性としては、各学校体育館に一度に整備するのか、中学校と小学校を分けていくのかなどもありますが、今後しっかりとした議論をして、前向きな回答をしていきたいと思っております。被災者だけではなく、学校行事におきましても、本当に寒い、暑いということを常に言われておりますのでしっかりと対応していきたいと考えております。

コミュニティスクールにつきましても、順調に進められてきていると感じております。

I C T機器の活用に関しましては、やはり機器が相当古くなってきております。国に対しては、常にお願いをしてきておりますが、パソコン関係は、耐用年数が

短いので、一度にGIGAスクール構想で整備したのは良いが、更新の時期についてもしっかりと市への援助をお願いしております。先日、国会議員の方ともお話をしましたが、国において議論が始まっているように聞いておりますので、さらに市としても要求をしていかなければいけないと思っております。

この先、学校の普通教室のエアコンの整備などにつきましても、同じ時期に始まっておりますので、このことについても、しっかりと県と連携をしながら、各市町の意見をまとめて要望していきたいと考えております。

学校給食につきましては、江南市では4月の1か月分を無償化したところであります。莫大な財政の問題が出てきますので、各市町が非常に苦労してるところであります。財政力の豊かな自治体と、そうでない自治体との差別化がされてきているのが、非常に残念であり、国の状況において早い段階で、全国市長会でも文科省や政府に対して要求をしていく情報を聞きました。早い段階で、国レベルで指導がされてくると思っております。国の方としても議論を始めていくということで、動き始めておりますので、その様子を見ながら江南市としても行っていかなければいけないと考えており、様々な方法がある中で研究してまいりたいと思っております。4月1ヶ月の無償化ではありましたが、報告にもありましたように、助かったと言われる家庭も多くありましたので、継続をしていきたいと思っております。

中学校のスポーツの関係につきましては、スポーツクラブ江南の方とも相談をしておりますが、やはり難しい面がたくさんあると聞いております。主には、やはり指導者と講習等の問題ですが、これは既に国の方で決められてきていることでもありますし、働き方改革については、行政としてもしっかりと取り組まなくてはならない。そうした中で、土日のクラブ活動については、スポーツクラブ江南を中心とした団体をお願いをしていく方針を考えておりますので、引き続きその方法や手当の問題などについて協議をしていく必要があると考えております。

toko+toko=labo の図書館につきましては、非常に評判が良いのですが、その中で使い勝手などについて様々なことが言われつつあります。縦割りをなくして協議をしていきたいと思っておりますが、相対的には、上手く利用していただいていると考えております。

私の方からは以上でございます。

それでは、次に議題2「学校施設の長寿命化及び再配置の検討について」です。事務局からの説明を求めます。

<教育課長>

学校施設の長寿命化及び再配置の検討についてでございます。前半部分を教育課、後半部分につきましては、財政課からご説明させていただきます

それでは、資料1番の学校施設の現状について、教育課より説明させていただきます。

1番でお示しさせていただいております、表やグラフにつきましては、令和3年3月に策定いたしました江南市学校長寿命化計画から抜粋しております。

学校施設の老朽化状況につきましては、築 50 年以上の建物は面積ベースで全体の約 48%、築 40 年以上 50 年未満の建物は面積ベースで全体の約 35%となっています。また、旧耐震基準（昭和 56 年（1981 年）以前建築）の建物は全体の約 87%を占めています。なお、旧耐震基準の建物についても、耐震診断後、耐震補強工事を実施しておりますことから安全性は確保されています。

また、令和 2 年度に一部の校舎で実施したコンクリート躯体の圧縮強度試験の結果から、築 50 年以上の校舎においても、コンクリート躯体自体の強度・健全性は保たれていることが推察できる状況となっております。

はねていただきまして、2 ページをお願いいたします。

小中学校の校舎は築 41 年～60 年となっており、劣化状況に応じて築 20～30 年目を目途に 1 回目の大規模改造工事が実施されております。しかしながら、平成 26～27 年度に実施した門弟山小学校の大規模改造工事を最後に、校舎の大規模改造工事は実施されておらず、1 回目の大規模改造工事から 30 年以上経過した学校が複数ある状況となっており、早急な改修スケジュールの策定が必要となります。

特に校舎の外壁については、塗装下地としてモルタルの厚塗りがされており、劣化による落下の危険性があり、このことは、全国的な問題となっています。令和 3 年 3 月の長寿命化計画策定時点では、目視のみによる調査を行っており、目視では確認できないモルタル浮きの打診調査及び調査結果に応じた改修スケジュールへの反映が必要となると考えております。

ページ中段には、江南市学校施設長寿命化計画から、計画策定時から 10 年間の実施計画の表を抜粋し掲載しております。各年度において、必ず必要となる光熱水費・委託料と修繕維持費が約 4 億円計上されております。それ以外として、長寿命化改修工事費や大規模改修工事費などの工事費が、各年度において、約 3 億円計上されておりますが、実績としては、令和 3 年度が約 9 千万円、4 年度が約 8 千万円、5 年度が約 3 千万円となっており、必要な改修工事が進捗していない状況となっております。

次に、2 番の児童生徒数の推移につきましては、昭和 50 年代から 60 年代をピークに減少に転じています。昭和 60 年の児童生徒数は、14,169 人となっておりますが、約 40 年後の令和 6 年では、約 53 パーセントの 7,518 人まで減少しています。

資料の 3 ページをお願いいたします。

参考として、江南市地域福祉計画より、地区別年少人口割合の推移の表を抜粋しております。年少人口とは 0 歳から 14 歳までの人口のことですが、藤ヶ丘地区での減少が大きくなっております。教育課からは以上でございます。

<財政課長>

次に、3 番の公共施設問題からは財政課より説明させていただきます。

(1) 江南市の財政状況でございます。本市は、財政運営上の重点取り組み事項として、選択と集中、自立型行政運営の推進を掲げており、財政の健全化と市民サービスのバランスをとりながら、持続可能な財政基盤を目指しているところでございます。3 ページ中段の表は、本市の市税収入と地方債残高、歳出の性質別経費のうち、扶助

費、投資的経費について、平成 20 年度から令和 3 年度までの推移を掲載しております。市税収入は、平成 20 年度が 130.3 億円、令和 3 年度は 126.7 億円で、年度間の増減があるものの、ほぼ横ばいというのが本市の特徴でございます。これは市税収入の 80%以上が、個人市民税と固定資産税が占めており、景気に左右される法人市民税が占める割合が低いことが、安定した税収になっているものでございます。地方債残高は、平成 20 年度が 210.1 億円、令和 3 年度が 254.7 億円と、若干増加傾向にあり、投資的経費の財源として地方債を発行し、事業を実施している状況でございます。歳出の面では、生活保護、子供医療費助成、障害者福祉に係る給付などが年々増加する一方、投資的な経費につきましては、横ばいという状況でございます。

(2) 今後の更新費用と財源の見込みでございます。この表は江南市公共施設等総合管理計画より抜粋した表でございます。現在の公共施設や道路、橋梁などインフラ施設をそのままの規模で維持更新する場合、令和 37 年度までに必要となる費用が合計 996.3 億円、年間で 26.9 億円となる一方、過去の投資的経費の実績から充当可能な財源を 691.9 億円、年間 18.7 億円と見込み、その差額 304.4 億円、年間 8.2 億円が財源不足になると見込んでおります。ただし、この見込み額につきましては、国や県からの補助金や地方債の借り入れについては算入していない点、また、現実の費用は改修内容等により、左右されることを加味する必要があります。人口減少による市税収入への影響や、扶助費など義務的経費の傾向などを勘案しますと、最下段に記載させていただいた通り、今の施設規模のまま全てを維持することは不可能になるものと考えております。

4 ページをお願いいたします。(3) 学校施設の今後の維持更新コストでございます。学校施設長寿命化計画では、令和 37 年度までの公共施設全体の更新費用 711.2 億円のうち、学校の更新費用が 491 億円になると見込んでおり、過去の学校施設管理費年間で約 5.7 億円と比べまして、2.5 倍の経費が必要としています。

中段には参考として、令和 4 年度の学校の維持運営コストを掲載してございます。

最後、4. 今後の取り組みでございます。人口減少が進む中、持続的な財政基盤を維持するには、公共施設の新規の抑制や複合化、減築などについて検討する必要があります。そのため、これまで古知野北公民館と学習等供用施設の統合や公有財産の売却に取り組んで参りました。現在では、保育園の統廃合、児童館、老人福祉センターの統廃合について、少しずつ進めているところでございます。学校施設長寿命化計画では、当面の間は学校の配置は維持するとされておりますが、老朽化による校舎の改修とともに、学校の再配置についても、他の公共施設同様、避けては通れない喫緊の課題となっております。他市においては、学校の統廃合などについて、保護者や学校関係者、地域住民との意見交換など、長期にわたり検討が進められております。本市においても、将来を見据え、今から適切な施策や取り組み、方針が必要となっております。以上の内容を踏まえまして、今後、具体的な内容といたしましては、議会からも様々なご意見をいただいております、宮田地区の小中学校について、検討を進めて参りたいと考えております。当然、これには様々なご意見が出てくるかもしれませんが、敷地やスペースの問題など、何が課題となり、どのような解決策があるのか、

また、どのようなスケジュールで、どのような会議体で取りまとめていくのがよいのか、市民との意見交換をどのような形で行っていくのがよいのかなど、まずは他市の事例を参考にしながら、市の内部で協議・検討に入る時期と考えておりますのでご審議の方、よろしく願いいたします。説明は以上でございます。

<市長>

説明がおわりました。学校施設の状況や再配置の検討についての説明がありました。皆様方からご意見等をいただきたいと思います。

<岩田委員>

まず一つ質問させてください。4ページの今後の維持・更新コストで、令和の25年以降、急に高くなっていますが、これは建替えという意味でしょうか。それとも何か他に理由があるのか教えてください。

<教育課長>

委員おっしゃる通り、建替えの費用でございます。

<岩田委員>

わかりました。もう1点、3番の(1)の財政状況の中で、平成29年が投資的経費が急に上がっているが、何か新しい施設ができたのでしょうか。

<財政課長>

平成29年に新体育館の建設がございまして、投資的経費が一時的に上昇したものです。

<岩田委員>

わかりました。

<山田委員>

2ページの下段にあります、2番の児童生徒数推移について、2点ご質問させていただきます。まず、児童生徒数については、昭和50年代から60年代をピークに減少に転じているという説明がございました。表のグラフから全体的に減少していることが見てとれます。また、細かいところを見ますと、平成13年と平成21年の比較では、小学校児童数が300人程度増加しているところもあるようです。このようなこともありますので、今後の児童生徒数の推移がどのようになっていくのか、お聞かせください。

2点目の質問ですが、直近のところで平成29年から令和6年までの7年間で、児童生徒数が800人以上減少しておりますが、この間の学級数の推移については、どのようになっているのかお聞かせください。

<教育課長>

児童生徒数の今後の推移につきましては、令和6年5月1日現在の児童生徒数7,518人に対して、5年後の令和11年度の推計値は6,612人となっており、906人減少することが見込まれております。

学級数の推移につきましては、平成29年5月1日で288学級、令和6年5月1日で303学級となっており、15学級増加しております。増加の理由といたしましては、少人数学級の拡大や特別支援学級の児童生徒の増加などが考えられます。

江南市学校施設長寿命化計画の中では、今後も、児童生徒数は減少傾向にありますが、学級数は大きく減少することはないと、学校を維持運営できるだけの規模にあると予想しております。

<山田委員>

児童生徒数が減少している中で、学級数がどのように推移していくのかについては、非常に大事なところであると感じておりました。ただいまの説明で、児童生徒数は減少傾向にあるものの、少人数学級や特別支援学級の児童生徒の増加などの理由から、学級数は大きく減少することはないと、学校を維持運営できるだけの規模にあると予想しているとのこと、少し安心いたしました。少人数学級の充実をさらに進めることによって、個別最適な学びの実現や、いじめ不登校対策、少人数になることでの感染症予防など、様々な効果が期待できると感じております。

日頃から市長様には、熱中症対策としてのエアコンの設置や市内全小中学校の児童生徒への1人1台端末の導入、支援員の増員など、迅速かつ的確なご支援をいただきまして非常にありがたく思っております。どうか引き続き、児童生徒の個に応じた健やかな学びと成長をご支援いただきますように、この場をお借りしまして、お願いをさせていただきます。

<後藤委員>

大規模改造工事について、先ほどの説明がありましたように、平成26年から27年に実施された門弟山小学校の大規模改造工事から約10年が経過してございまして、この間、エアコンの設置であったり、トイレの洋式化改修工事であったり、多くの費用が掛かる事業がありましたが、これは致し方ないと思っております。これからも順次進めていく必要があると思っております。学校現場において、たまに耳にするのが、外壁の剥がれや落下が所々で発生しているようであります。落下物については重たいので、子ども達に当たるようなことがありましたら大変なことです。何かあってからでは遅いので、できるだけ早急に、今回の資料にも書いてありますように、目視では確認できない部分の打診調査などを集中的にやっていただく必要があるのではないかと考えております。今回の資料の2ページでは、改修のスケジュールを策定して実施する必要があると説明されておりますが、まずは調査を優先的にしていただいて、安全確保をしていただきたいと思います。

また一方では、3ページで示されているように、令和37年度までの公共施設全体の更新費用が、711億2000万円で、259億8000万円の不足。資料4ページでは、更新費用のうちです学校施設が491億円と過半を占める状況となっておりますので、当然財源が不足すると思われる中で、この大規模改造工事をどのように実施していくのか、これからのお考えをお聞かせください

<教育課長>

外壁の調査につきましては、非常に危惧しているところでございまして、財政課の資産経営グループとも連携を図りながら、しっかり調査をしていきたいと考えております。

次に、資料の更新費用につきましては、江南市公共市施設等総合管理計画及び同計画に基づく個別計画として位置づけております、江南市学校施設長寿命化計画の中で試算をしております。試算の前提条件としましては、建物の建設から建替えまでを80年間と設定し、20年周期で3回の大規模な改修工事を行った後、既存建物と同じ面積での建替えを行う試算となっております。

しかしながら、資料の2ページでご説明したように、実際には、20年周期での大規模な改修工事は、実施できていない状況であり、現実的には、建物の建設から建替えまで、約30年の周期で2回の大規模な改修工事を行っていくことが想定される状況となっております。

今後の学校施設の改修スケジュールにつきましては、建物の耐用年数などを踏まえて考えた場合、約30年の周期で大規模改造工事を実施し、長寿命化を図り、児童・生徒数の減少に応じた必要面積での建替えを実施することを検討しており、この手法を用いることにより、現在の更新費用の試算方法より大幅に縮減することができると考えております。

この改修スケジュールに併せて、補助金・交付金を活用することや児童・生徒数の減少に応じて、複合化や統廃合を実施することで、さらに更新費用を縮減することができると考えております。

<藤田委員>

資料の説明の中で今後の取り組みとして、小中学校の統廃合や小中一貫教育校の導入などが、挙げられておりました。

令和4年度の総合教育会議においても、公共施設の再配置と小中一貫校の導入についてを議題としていました。その中で、小中一貫校の導入については、多くの課題があり、特に敷地の確保が困難であるとされておりました。現時点で、敷地の確保の検討は進んでいるのでしょうか。お尋ねいたします。

<財政課長>

本日の資料には、小中一貫校というフレーズは含まれておりませんが、令和4年度

の総合教育会議においては、学校の統廃合の手法の一つということで、統廃合する場合、小中一貫校とする場合、ということで議題とした経緯がございます。その会議の中で課題となったものが、只今委員からご指摘をいただきました、敷地の確保という観点で、スペースの問題がクローズアップされ、ご指摘をいただいたところでございます。

現時点、あれから2年経過しておりますが、具体的に土地を確保できるとか、確保する見込みがあるとか、見通しは立っていない状況でございます。ただし、今後、検討する中で、江南市としてどのような学校を整備していきたいのか、例えば、少人数学級ということで、教室や廊下の寸法、校庭の大きさですとか、小中一貫校とする場合、体育館を2つ作らないといけないなどの意見が想定されます。それが江南市としてどういう施設をどのような規模で作っていかなければならないのかということ、ある程度計画・検討した上で、どこの敷地をどのぐらいの規模で購入していく必要があるのかということが、今後の議題の俎上に初めて上がってくるのではないかと思います。ニュアンスを持っておりますので、現状としては、お答えできる材料はない状況です。

<岩田委員>

私は、江南市と同じ年齢であります。私の小学校時代、校舎は木造で、高くても2階建てであり、廊下はミシミシと音が鳴り、台風が来れば瓦が飛んでくるというような状況の中で、昭和50年くらいで校舎が鉄筋コンクリート造に建替えられたことで、すごく学校が変わってきた時代を過ごしてきました。トイレの洋式化、ICTの環境整備、教室へのエアコンの整備など、各家庭が一生懸命設置を進めてきたものが、学校においても導入されており、計画的に進められていると感じております。

その中でこれから学校施設の将来計画については、先程、財政課長がおっしゃったように、スケジュールの策定が大事になってくると思います。説明がありましたように、20年後ぐらいに、校舎を建替える方向に向けては、その建替えに合わせて、どのように改修をしていくかの検討がどうしても必要になってきます。改修スケジュールの策定や建替えに向けての調査研究など、これはすごい業務負担が発生すると予想されます。ですから専門の知識を有する人材を配置するなど、或いはグループを作る、或いはチーム化をする、そういうような人員の増加が当然必要だと思います。

もう1点、今の教育課につきましては、現時点においても多くの時間外勤務が発生していると聞いております。市内15校の小中学校があり、当然毎日いろんなことが起きる中で、素早く対応する必要があるものと、計画的に対応していくものがあり、また、子ども土曜塾、子ども未来塾をはじめとする休日の活動もあり、人員体制の強化が必要ではないかと思っています。このあたりの人員の増加、体制の強化について、どのように考えているのか、お聞かせください。

<教育課長>

今後の改修スケジュールの策定をはじめ、再配置・建替えの調査・研究を行うため

には、学校ごとに具体的な検証が必要となり、それらを統合し学校施設全体の将来像を検討する必要があります。本日の資料にもありますように、市内公共施設の更新費用については、学校施設が過半を超える状況であり、検討を進めるための事務量は膨大なものになると考えております。

教育課の人員体制の強化につきましては、財政課資産経営グループとの連携を強化するとともに、人事部局と協議を図ってまいりたいと考えております。

<岩田委員>

ありがとうございます。木造が鉄筋に変わった、このような大改革ではないかもしれませんが、現在の校舎がどのように変わっていくのか、市民も注目していると思いますので、よろしく願いをします。

<教育長>

学校の統廃合の関係については、令和4年度の総合教育会議の中でも小中一貫教育校のお話をさせていただきました。藤里小学校、宮田小学校、宮田中学校の3校を対象として、お願いをさせていただいたわけです。

冒頭で山田委員がおっしゃったように、少人数学級で学級編成をしますと、そんなに学級が減っていくような状況ではないというのがひとつあります。ご承知のように35人学級ですので、36人になると2学級になるので1学級が18人学級になります。そういうことを考えますと、現在、藤里小学校の少ないところで16人の学級です。多いところは20人以上いるのですが、今後は、おそらく10人台から20人台前半で大体推移していくのであろうと想定しています。

藤里小学校の少人数の指導としては、私も学校を訪問しておりますが、本当に個々に応じた指導がしっかりできているということもあり、魅力があると私は思っております。これが例えば、宮田小学校に統合されてしまいますと、その子達は一つの学校の中に入ってきますけど、個々に応じた学習が十分にできるのかどうかというところが非常に課題になってまいります。

施設の問題は、よく分かりますが、やはり教育は施設だけの話ではなくて、人ありきの話ですので、そういう点を考えていきますと、最終的に魅力ある学校づくりを考えますと、小中一貫教育校というのが、魅力的であると思っております。そのために先ほど財政課長がおっしゃったように、どういう形の校舎の配置であるとか、或いは校舎の中身などを検討するのは非常に大事であると思っております。現在の面積の中で例えば、宮田中学校の敷地の中に作ろうと考えた時にどういうことが可能なのか検討していく余地は十分にあると思っております。ただ単純に藤里小学校と宮田小学校を統合するだけではなく、仮に一旦統合したとしても、また宮田中学校と一緒にするような、一つの構想を持っていかないといけない。単純にいけば地域住民や保護者など、なかなか振り返られないのではないかと考えていますので、単に面積を減らしていくのではなく教育を充実させていくという観点でぜひ進めていただけるといいと思います。

そのためにも、後藤委員や岩田委員がおっしゃったように、修繕するところは十分

修繕しながら、長寿命化を進めていくのも一つの方策であると思っています。

本当に学級数など余裕があるのだろうと思われておりますが、決してそうではないのが現状で、これからもそんなに多くの教室が余るような状況ではないと考えます。大体1年に200人前後が減っていくということになりますが、もっと大幅に減少するような時代が来るのかというと、今のところ見込みとしてはないので、その辺を考えると、今の学校規模はそのまま維持していく方がいいのではないかと考えております。

しかし、将来的に江南市が進むべき道は、考えていかなければならないので、時間をかけてゆっくりとスタッフを揃えながら研究をしていく、そのような体制を整えていく必要があると思います。

<市長>

ありがとうございます。私も地域にいて、自分が通っていた小学校が、今後少人数化して廃校や統合などをして、なくなってしまうのは寂しいなという考えを持つ1人でありました。私の子供も成人しておりますが、江南市が合併議論のあった時、ひょっとしたら江南市は犬山市になってしまうかもしれないよ、と泣いて訴えられたことがありました。

それだけ自分の前で起こることで、これまで通っていた学校がなくなるとか、市の名前が変わることに対して反発があったわけですが、当然、一般の市民の方々、地域の方々からもそういう意見があるかと思っており、また、地域行政の部分については、小学校の各委員を中心とした行政も行われてるわけでありますので、学校というところは、これまでの江南市ができて以来

、ずっと同じような形で進められてきたことであると思っています。万が一このシステムを変えてしまうと、大変革になってしまうということで、なかなか地域住民の皆さん方の意見も受けられないということを思っておりました。

ところが、岩田委員がおっしゃいましたように、随分学校自体が変わってきて、最近のところでは、学校のプールの授業をなしにしたり、実際にプールを壊したり、江南市では、まだまだありませんけれども、そのような流れになってきている。

愛知県の中でも愛西市でしたか、5つの小学校が統合されるということで、新しく平成の大合併が行われたようなところについては、そのような時期に来ているのかと思います。交通体系から変えてくるような、そうした大きな問題が今起こってきており、全国的に見ても統廃合の波というものは、変えようがないという大きな状況であると思います。

ただ、小規模校が悪いわけでは決してありませんし、非常に人間味溢れるような教育が行われているということも聞いているわけであります。そうした中で江南市を、今具体的に教育長からお話ありましたように、例えば藤里小学校、宮田小学校、宮田中学校あたりを小中一貫となると、非常に魅力的な教育が行われるという印象があります。では、これだけの学校を何処に作っていくかというのは非常に難しいというように思っております。ましてや古知野南小学校と古知野西小学校ということになった場合にどうなるのかということは、なかなか想像ができないような状況であると思

ます。

その中で一つ、これは他の団体でありますし、公共団体ではありませんので、なかなか発言しにくいと思うのですが、江南団地については、どんどん人口減少していて、一人暮らしの高齢者の方々が非常に多い。上の方の3階、4階あたりから空き家も多くなってきている。そうした状況で全国的にURも、どうあるべきかということを考えている中で、江南団地については、特に決定も何もないわけではありますが、今のままでもないと想像できるわけです。そうした中で、何か人口が増えるような施策をURが行っているのか。また、市と共同して考えていくのかによっても違って来るかもしれない。そこで藤里小学校が今、一番なくしやすい人数にきているのですが、なくしてしまっているのか、という考え方もあるわけです。かと言って何も先のことが決まってないので、スケジュール感を持ってしっかり取り組んでいかななくてはならない中で、私は、やはり以前と少し考え方も変わってきてますけども、小中学校の統合校、小中一貫校を作り上げていくということについては、スケールメリットも働かし、子どもたちの競いの中での学び、そうしたこともできてくると思いますので、いいことであると思っております。

そうした中で、どのような形で提起していくのか、これから考えていかないといけないのですが、江南団地の今後の動向をある程度見ながら、ただゆっくりしてはいられませんので、早期に対応していかなければいけないというのが、江南市の小中学校の統廃合や小中一貫校の考え方の一つに繋がっていくと思っております。

市役所の中で、企画部の関係なのかわかりませんが、URの方との協議のようなものが、しっかりと必要になってくるのではと思っております。ここで道を誤ると、また余計な費用の捻出などをすることになってきますので、少し考え方を改めていかないといけないのかと今、個人的には思っています。また、これがどのように実現していくのかについては、内部でまた検討していきますが、今はそのように思っております。

民間でやれることは民間でというのは、私の基本的な考え方でありまして、プールの事業についても、民間でお願いしたらいいと思いつつも、なかなか全てうまくいかない状況であります。市民の皆さんと協力しながら、また、学校関係者に聞きながら進めていくべきではないか、早期に少しずつ進めていかなければいけないと思っております。

他に何かご意見ございましたらお願いしたいと思います。

ありがとうございます。委員の皆様からは、議題1の大綱に示された事業につきまして、また、議題2の学校施設の長寿命化及び再配置の検討につきまして、貴重なご意見、ご提案をいただきましてありがとうございます。ただいま伺いましたご意見などは、今後の教育行政に反映させるべく努力して参りたいと思っております。

現在第6次江南市総合計画後期基本計画に基づき、教育分野をはじめとした様々な事業について精査をし、取り組んでいるところでございます。江南市の財政状況を鑑みながら、各事業に優先順位を付け事業を実施して参りますので、今後も委員の皆様がお気づきになられましたことは、今後の総合教育会議などにおいて、ご提案をして

いただきたいと思っております。

貴重なご意見、ご提案をいただきまして、ありがとうございました。本日の議題はすべて終了いたしました。以降の進行につきましては、事務局にお返しいたします。

<企画部長>

大変ありがとうございました。委員の皆様方からの貴重なご意見、ご提案をいただきましてありがとうございます。

江南市も限られた財源の中での運営ということになりますので、なかなか教育行政に全てをとるわけにはいかないような状況でございます。従いまして、なかなか皆様の意見を全て反映するようなことは、難しい状況でございますので、その辺りはご理解いただきたいと思います。

それではこれにて本日の会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

午後 2 時 45 分 閉 会